研究データ利活用協議会（RDUF）

公開シンポジウム2024 プログラム

Research Data Utilization Forum Public Symposium 2024 Program

日時　：2024年12月4日（月）13：30～17：30（会場受付13:00～）
※オンライン配信は 16:45 まで

開催方法：ハイブリッド開催
現地会場：科学技術振興機構 東京本部別館 1F ホール
オンライン配信：Zoomビデオウェビナー

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

● タイムテーブル ●

時間	内容
13:30～13:35	開会挨拶
第1部	
13:35～14:20	招待講演（質疑応答含む） ※Slidoからの質疑可 「生成AI時代における研究データ共有の新たな展開 ーオープンサイエンスの理想と現実ー」 講演者：清田 陽司（一般社団法人情報科学技術協会/麗澤大学）
（10分間）	休憩
第2部	
14:30～14:40	研究データ利活用協議会の活動紹介
14:40～15:10	小委員会・部会の活動報告（各10分/質疑応答含む） ※Slidoからの質疑可 ● 研究データへのDOI登録促進小委員会 ● データ共有・公開制度検討部会 ● ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会（JDARN）
（10分間）	休憩
15:20～16:40	RDUF会員による研究データ利活用に関するライトニングトーク ● 「RDMkit-jpを通じた国内情報共有サービスの開発と展望」 ● 「チームで取り組む研究データ管理支援：千葉大学ALC/附属図書館のプロジェクトと人材育成」（ポスターセッション参加） ● 「Mahalo Button：生成AIで強化された研究データ利用事例の共有プラットフォーム」（ポスターセッション参加） ● 「統合データ検索システムでのサンプルメタデータ公開システムの構築」 ● 「日本原子力研究開発機構における研究データ公開の現状と今後の展望」（ポスターセッション参加） ● 「研究データ管理および研究データガバナンスに関するAustralasiaの動向」（ポスターセッション参加） ● 「研究データリポジトリ「GRANTS Data（仮称）」の紹介」（ポスターセッション参加） ● 会場参加者からの質疑 10分
16:40 ～16:45	総括 ※オンライン配信終了
（10分間）	休憩
第3部	
16:55～17:30	ポスターセッション ※現地会場のみ
17:30	閉会

● 招待講演 ●

13:35～14:20　（質疑応答含む）※Slidoからの質疑可

生成AI時代における研究データ共有の新たな展開
ーオープンサイエンスの理想と現実ー

講演者

清田 陽司（一般社団法人情報科学技術協会/麗澤大学）

概要

Webの爆発的普及以降、Wikipedia、ImageNetなど、Webベースの大規模データ資源は人工知能（AI）研究の発展を支えてきた。近年、ChatGPTに代表される生成AIの台頭により、研究データ共有を取り巻く環境は大きく変化している。大規模言語モデルの学習データをめぐる議論や、Twitter（X）などのプラットフォーム上のデータの研究利用制限は、研究データのオープン化に新たな課題を投げかけている。本講演では、NII IDRやLIFULLの不動産データ提供などの実践例を参照しながら、研究データ共有の理想と現実について考察し、今後の展望を議論する。

● 小委員会・部会の活動報告 ●

14:40～15:10　（各10分/質疑応答含む）※Slidoからの質疑可

① 研究データへのDOI登録促進小委員会 活動報告
-研究データへのDOI登録ガイドライン改訂版の紹介-

講演者

白井 知子（国立環境研究所）

概要

本小委員会では、各分野・機関における研究データへのDOI登録に関する運用経験、現状の課題等を調査・議論し、それを反映して「研究データへのDOI登録ガイドライン」の改訂を行った。本発表では、小委員会成果物として、2024年6月に公開した「研究データへのDOI登録ガイドライン」改訂版を紹介するとともに、小委員会の議論から関連のトピックスを共有する。

② データ共有・公開制度検討部会 活動報告（2024）

講演者

南山 泰之（国立情報学研究所）

概要

データ共有・公開制度検討部会では、「RDUF研究データライセンス小委員会」による活動の継承と展開、及び研究データ利活用にまつわる法的・制度的課題に関する論点の検討を行っている。本発表では、部会における今年度の議論の概要を紹介する。

③ ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会（JDARN）活動報告

講演者

八塚 茂（製品評価技術基盤機構）

概要

ジャパンデータリポジトリネットワーク(JDARN)推進部会は、2017年に「国内の分野リポジトリ関係者のネットワーク構築」小委員会として設立して以降、研究データの管理や運営に関わるメンバーが集まり、「研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン」の策定等を行ってきた。現在では、研究データに関する様々なトピックについて議論や意見交換を行う場となっており、本報告ではその主なものを紹介する。

● ライトニングトーク ● 15:20～16:40 （各7分）

※オンライン発表

① RDMkit-jpを通じた国内情報共有サービスの開発と展望

講演者

古川 雅子、南山 泰之、大波 純一、増井 誠生、長岡 千香子（国立情報学研究所、理化学研究所）

概要

2021年の内閣府による「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」公開以降、国内で研究データをオープンにする取り組みが進んでいる。しかし、RDM（研究データ管理）の知識はまだ模索中である。一方、欧州ではFAIR原則に基づき、ELIXIRがRDMkitサイトを構築しており、これは国内でも有用と考えられる。そこで、我々は2023年に「RDMkit-jp」を公開した。本サイトではRDMに関する知識やツール情報を随時追加しており、GitHubを利用したフィードバックや、教材の簡易アクセスも開発中である。今後もコンテンツを充実させ、国内のRDM整備に資するサービスとしていく。

ポスターセッション参加

② チームで取り組む研究データ管理支援：千葉大学ALC/附属図書館のプロジェクトと人材育成

講演者

熊﨑 由衣*、國本 千裕（千葉大学附属図書館、千葉大学アカデミック・リンク・センター）

*当日発表者

概要

千葉大学では2024年現在、研究データポリシー実践のため部局横断的な支援体制を構築し、ALC/附属図書館では、データも含めた研究成果の公開支援と研究データ管理教育を主に担っている。支援の開始にあたってはALC/附属図書館の特徴である教職協働プロジェクトの枠組みを用い、学内研究者へのインタビュー調査、研究データ管理支援のための教材作成、大学院生への講義などをチームで実践している。このチームによる取り組みは同時にメンバー間での相互研修・相互育成の効果も生み出している。これらの活動内容を紹介するとともに、プロジェクトチームとして行う研究データ支援及び人材育成の現状について報告する。

ポスターセッション参加

③ Mahalo Button：生成AIで強化された研究データ利用事例の共有プラットフォーム

講演者

北本 朝展、中原 陽子（国立情報学研究所）

概要

データリポジトリの役割として、研究データの公開に加えて、研究データの利活用促進がますます重要になりつつある。そこでデータ統合・解析システム（DIAS）では、研究データの利用事例をデータリポジトリ上で収集し共有するプラットフォームMahalo Button（https://mahalo.ex.nii.ac.jp/）を開発している。我々はデータ利用事例の収集と共有を円滑化するために、データDOIを用いたデータ引用検索機能を実現した。さらに生成AIを用いた機能強化として、利用事例登録のためのメタデータ付与支援機能や、利用事例共有のための生成AIチャット機能を構築した。

④ 統合データ検索システムでのサンプルメタデータ公開システムの構築

講演者

高津 佳宏、杉原 孝充（海洋研究開発機構）

概要

JAMSTECではこれまで調査航海で取得した岩石サンプル・生物サンプル・堆積物コアサンプル等のメタデータを内部管理システムに継続して蓄積・管理している。本ライトニングトークでは2024年3月にリニューアル公開した航海・潜航データ・サンプル探索システム（DARWIN）で公開している航海・潜航データおよび構築中のサンプルメタデータ公開システムについて紹介する。

ポスターセッション参加

⑤ 日本原子力研究開発機構における研究データ公開の現状と今後の展望

講演者

清水 彩乃（日本原子力研究開発機構）

概要

日本原子力研究開発機構(JAEA)では、独自開発・運用する機関リポジトリである「研究開発成果検索・閲覧システム」(JOPSS)にて職員等の研究開発成果を国内外に発信している。近年、ジャーナルや研究助成機関からの要請によって研究データの公開が求められる機会が増えている。JAEAでは研究開発活動で得られた研究データについて様々な形で公開してきたが、この度JAIRO Cloud上にJAEAの研究データ公開システムを構築し試験運用を開始、JOPSSとも連携を図っている。本発表では、研究データ公開事例としてJAEAにおける経緯や本システムの運用体制について紹介するとともに、今後の展望についても言及する。

ポスターセッション参加

⑥ 研究データ管理および研究データガバナンスに関するAustralasiaの動向

講演者

平木 俊幸（国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター）

概要

2024年10月28日から11月1日にメルボルンにてeResearch Australasia 2024 Conferenceが開催された。本会議にはAustralasia（オーストラリア・ニュージーランド・ニューギニア等を含む地域の名称）において研究データ管理に携わる人が集結し、eResearch（研究活動への情報通信技術の活用）に関する実践・枠組みに関する議論や情報共有が行われた。本講演では、本会議で展開された研究データ管理および研究データガバナンスに関連するトピックを扱う講演・議論について、発表者および所属先の取り組みと関連付けつつ報告する。

ポスターセッション参加

⑦ 研究データリポジトリ「GRANTS Data（仮称）」の紹介

講演者

住本 研一（科学技術振興機構）

概要

「学術論文等の即時オープンアクセス（以下「即時OA」という）の実現に向けた基本方針」等により、2025年度から科研費など4つの競争的研究費の新規採択者は、成果論文の学術雑誌への掲載後に即時に学術論文とその根拠データを、機関リポジトリ（以下「IR」という）等に掲載することとなった。掲載箇所としては原則IRとなるが、IRが利用できない場合等は、科学技術振興機構（JST）が開発中のリポジトリ（仮称）GRANTS Dataに登載することで、即時OAに対応できる。本トークでは、（仮称）GRANTS Dataについて、どのような機能をもち、どのように運用しようと現在考えているかを簡単に紹介する。